

モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド

(為替ヘッジあり/資産成長型) (為替ヘッジなし/資産成長型)

(為替ヘッジあり/予想分配金提示型) (為替ヘッジなし/予想分配金提示型)

資産成長型

第 4 期 (決算日 2024年 7 月10日)

予想分配金提示型

第19期 (決算日 2024年 2 月13日)

第20期 (決算日 2024年 3 月11日)

第21期 (決算日 2024年 4 月10日)

第22期 (決算日 2024年 5 月10日)

第23期 (決算日 2024年 6 月10日)

第24期 (決算日 2024年 7 月10日)

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先 (コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00～17:00)

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

◇SKU0347120240710◇

<3471>

<3472>

<3473>

<3474>

モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド (為替ヘッジあり/資産成長型)

<3471>

追加型投信/内外/株式
日経新聞掲載名:MSイン有資

第4期 2024年7月10日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

| | | |
|------|-------|----------|
| 第4期末 | 基準価額 | 9,095円 |
| | 純資産総額 | 1,619百万円 |
| 第4期 | 騰落率 | △1.1% |
| | 分配金 | 20円 |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00~17:00(営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

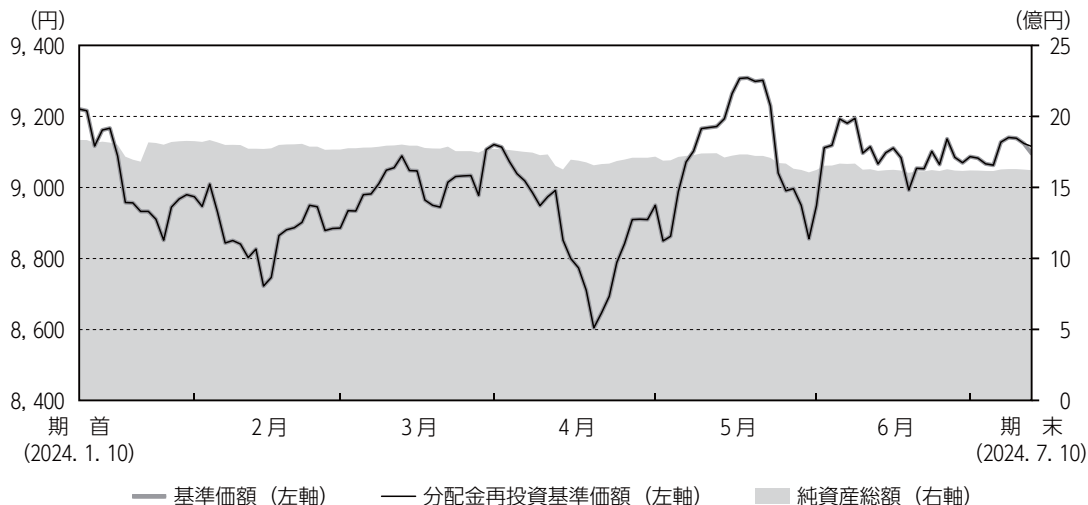
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：9,220円

期末：9,095円 (分配金20円)

騰落率：△1.1% (分配金込み)

基準価額の主な変動要因

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券を通じて、日本を含む世界のインフラ関連企業の株式等に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行った結果、ヘッジコスト負担などにより、基準価額は下落しました。

1 万口当りの費用の明細

| 項 目 | 当 期 (2024. 1. 11~2024. 7. 10) | | 項 目 の 概 要 |
|---------------|----------------------------------|----------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 信 託 報 酬 | 78円 | 0. 862% | 信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9, 003円です。 |
| （投 信 会 社） | (42) | (0. 465) | 投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価 |
| （販 売 会 社） | (35) | (0. 383) | 販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受 託 会 社） | (1) | (0. 014) | 受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| 売 買 委 託 手 数 料 | 4 | 0. 048 | 売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| （株 式） | (4) | (0. 045) | |
| （投 資 証 券） | (0) | (0. 003) | |
| 有 価 証 券 取 引 税 | 2 | 0. 028 | 有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| （株 式） | (2) | (0. 028) | |
| （投 資 証 券） | (0) | (0. 000) | |
| そ の 他 費 用 | 4 | 0. 041 | その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数 |
| （保 管 費 用） | (3) | (0. 037) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| （監 査 費 用） | (0) | (0. 003) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （そ の 他） | (0) | (0. 001) | 信託事務の処理等に関するその他の費用 |
| 合 計 | 88 | 0. 978 | |

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

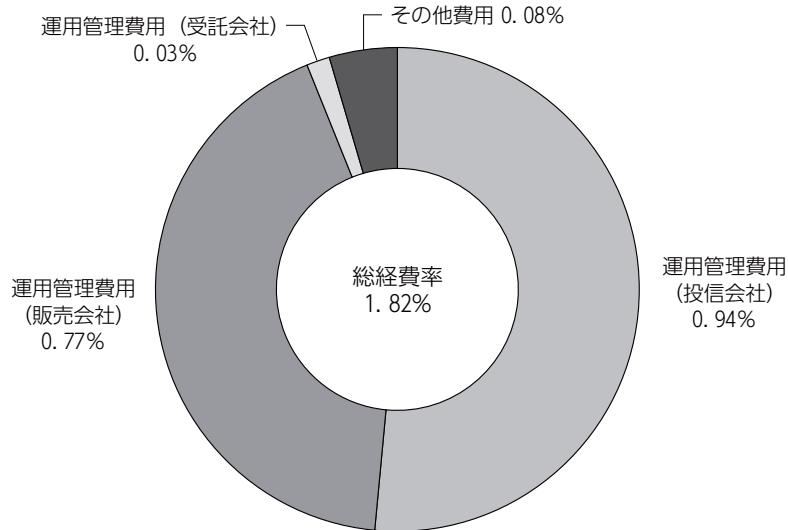
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.82%です。

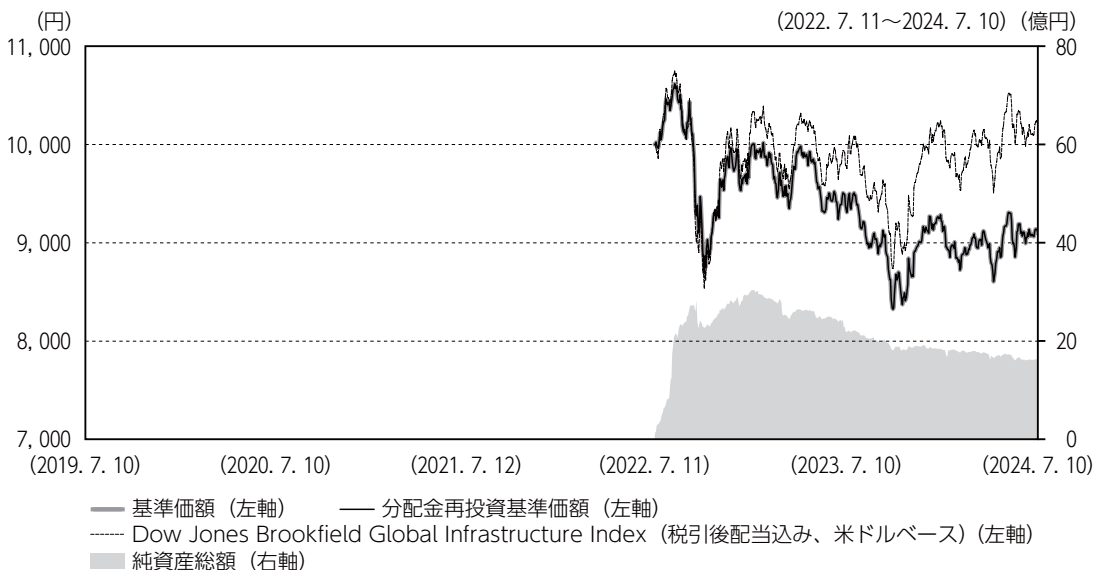


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近 5 年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2022年7月11日を10,000として指数化したものです。

* 参考指数は Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

| | | 2022年7月11日 設定 | 2023年7月10日 決算日 | 2024年7月10日 決算日 |
|---|-------|------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 | (円) | 10,000 | 9,335 | 9,095 |
| 期間分配金合計 (税込み) | (円) | — | 0 | 20 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 | (%) | — | △6.7 | △2.4 |
| Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) 騰落率 | (%) | — | △2.2 | 4.5 |
| 純資産総額 | (百万円) | 150 | 2,187 | 1,619 |

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) 騰落率は、同指数の原データをもとに、大和アセットマネジメントが計算したものです。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

(2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10)

■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇したものの、インフラ関連株式市況は横ばいとなりました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、世界的にインフレ率の低下傾向が継続したことやAI（人工知能）関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、上昇しました。2024年4月に入ると、想定ほどインフレ率が低下せず米国の利下げ開始が後ずれするとの見方が強まり、反落しました。しかし4月下旬以降は、AI関連企業の高成長期待が相場をけん引し、再び上昇して当作成期末を迎えました。

一方、インフラ関連株式市況は、金融政策や金利動向に左右されて横ばい圏で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

また、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行います。

■モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地
域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運
用を行ってまいります。

ポートフォリオについて

(2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10)

当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を高位に維持しました。

また、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行いました。

モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

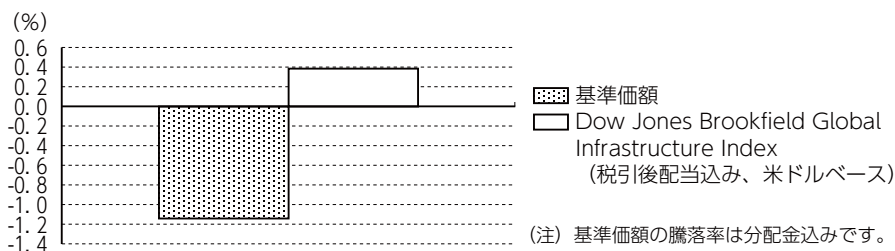
当ファンドの株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託しております。

独自に算出したインフラ関連企業の企業価値をベースに、国・地域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンを最大化をめざし、運用を行いました。業種別では、公益事業やエネルギーセクターなどを高位に組み入れました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

当 期
(2024. 1. 10 ~ 2024. 7. 10)

分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳(1万口当り)

| 項 目 | 当期 | |
|-------------------|---------------------------|-----------|
| | 2024年1月11日 ～2024年7月10日 | |
| 当期分配金(税込み) | (円) | 20 |
| 対基準価額比率 | (%) | 0.22 |
| 当期の収益 | (円) | 20 |
| 当期の収益以外 | (円) | — |
| 翌期繰越分配対象額 | (円) | 263 |

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

収益分配金の計算過程(1万口当り)

| 項 目 | 当期 | |
|-----------------------------|----|--------|
| (a) 経費控除後の配当等収益 | ✓ | 95.27円 |
| (b) 経費控除後の有価証券売却等損益 | | 0.00 |
| (c) 収益調整金 | | 50.65 |
| (d) 分配準備積立金 | | 137.88 |
| (e) 当期分配対象額 (a + b + c + d) | | 283.81 |
| (f) 分配金 | | 20.00 |
| (g) 翌期繰越分配対象額 (e - f) | | 263.81 |

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

また、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行います。

■モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地
域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運
用を行ってまいります。



当ファンドの概要

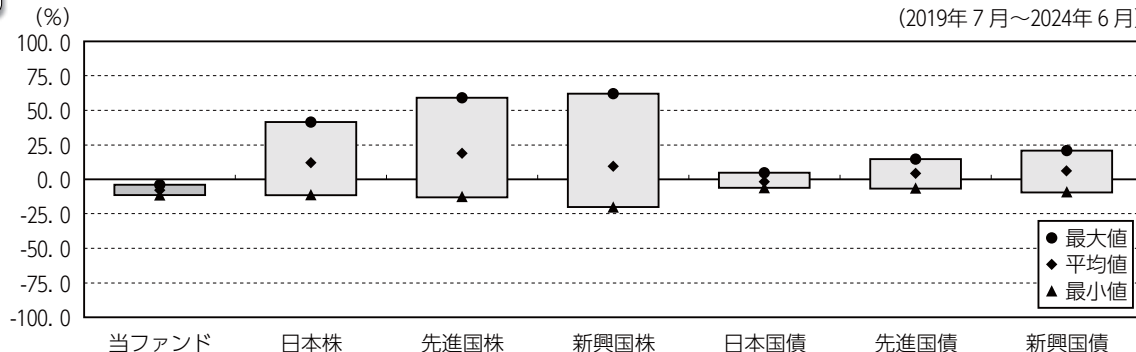
| | | |
|--------------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信/内外/株式 | |
| 信託期間 | 2022年7月11日～2050年7月8日 | |
| 運用方針 | 信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 | |
| 主要投資対象 | ベビーファンド | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンドの受益証券 |
| | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | イ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。またDR（預託証券）を含みます。） ロ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券（上場予定および店頭登録予定を含みます。以下総称して「リート」といいます。） |
| ベビーファンドの運用方法 | ①マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ②保有実質外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。ただし、一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、他の通貨による代替ヘッジを行なう場合があります。 ※保有実質外貨建資産とは、当ファンドが保有する外貨建資産およびマザーファンドが保有する外貨建資産のうち当ファンドに属するとみなした外貨建資産をいいます。 | |
| マザーファンドの運用方法 | ①主として、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざします。 ※株式等には、リートを含みます。 ②株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。 ③株式等の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。 | |
| 分配方針 | 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 | |

Dow Jones Brookfield Global Infrastructure IndexはS & P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJ I」）およびBrookfield Asset Management Inc. の商品であり、これを利用するライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Standard & Poor's® およびS & P® は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S & P」）の登録商標で、Dow Jones® は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。またBrookfield Asset Management Inc. は、Brookfield Asset Management Inc. の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJ Iに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが大和アセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。「モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド」は、SPDJ I、Dow Jones、S & P、それらの各関連会社、またはBrookfield Asset Management Inc. によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Indexのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年7月～2024年6月)



| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | △ 3.3 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 15.3 | 21.5 |
| 平均値 | △ 7.2 | 12.7 | 19.5 | 10.0 | △ 1.2 | 4.9 | 6.7 |
| 最小値 | △ 10.7 | △ 10.8 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 8.8 |

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる商標または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる商標または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



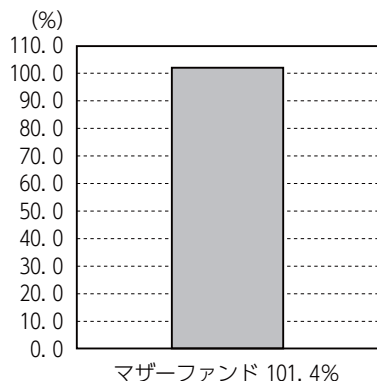
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

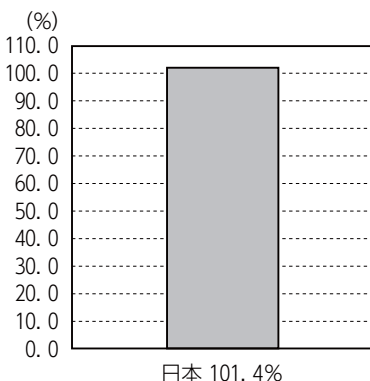
組入ファンド等

| | 比 率 |
|--------------------------|--------|
| モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | 101.4% |

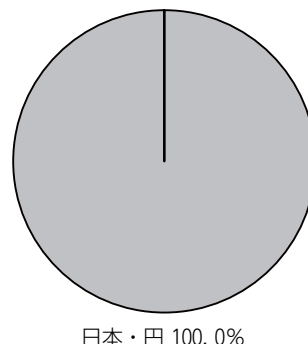
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2024年7月10日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 組入ファンドの保有外貨建資産に対して、為替ヘッジを行っています (為替ヘッジ比率：当ファンドの純資産総額の97.9%)。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

| 項 目 | 当期末 |
|-----------|----------------|
| | 2024年7月10日 |
| 純資産総額 | 1,619,728,730円 |
| 受益権総口数 | 1,780,857,705口 |
| 1万口当り基準価額 | 9,095円 |

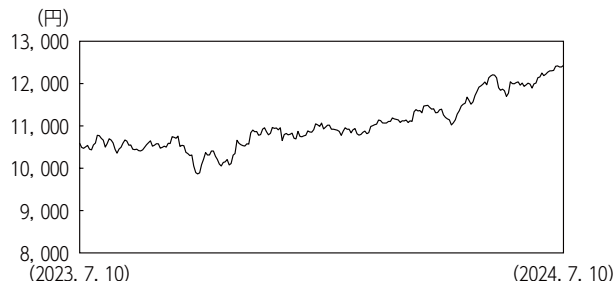
* 当期中における追加設定元本額は277,824,204円、同解約元本額は484,590,128円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド (作成対象期間 2023年7月11日～2024年7月10日)

■基準価額の推移



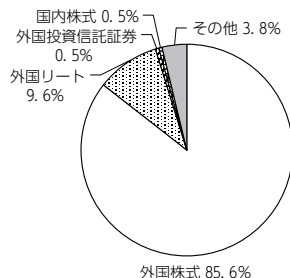
■1万口当りの費用の明細

| 項目 | |
|---------|-----|
| 売買委託手数料 | 9円 |
| (株式) | (9) |
| (投資証券) | (1) |
| 有価証券取引税 | 4 |
| (株式) | (4) |
| (投資証券) | (0) |
| その他費用 | 5 |
| (保管費用) | (5) |
| (その他) | (0) |
| 合計 | 18 |

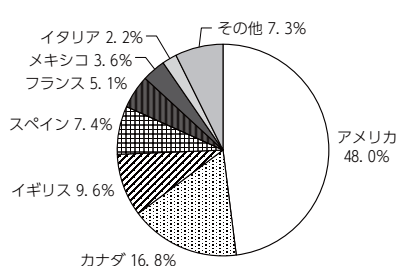
■組入上位銘柄

| 銘柄名 | 通貨 | 比率 |
|------------------------------------|----------|------|
| NATIONAL GRID PLC | イギリス・ポンド | 7.9% |
| AMERICAN TOWER CORP | アメリカ・ドル | 7.2 |
| GFL ENVIRONMENTAL SUBORDINATE VOTI | アメリカ・ドル | 5.5 |
| VINCI SA | ユーロ | 4.4 |
| SEMPRA ENERGY | アメリカ・ドル | 3.6 |
| GRUPO AEROPORT DEL PACIFIC-B | メキシコ・ペソ | 3.6 |
| PEMBINA PIPELINE CORP | カナダ・ドル | 3.5 |
| TARGA RESOURCES CORP | アメリカ・ドル | 3.5 |
| ONEOK INC | アメリカ・ドル | 3.3 |
| CHENIERE ENERGY INC | アメリカ・ドル | 2.9 |
| 組入銘柄数 | | 54銘柄 |

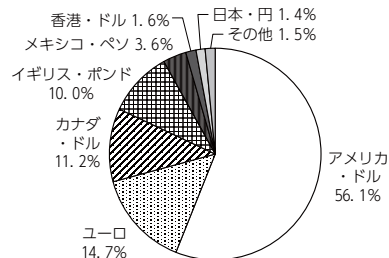
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド (為替ヘッジなし/資産成長型)

<3472>

追加型投信/内外/株式
日経新聞掲載名:MS イン無資

第4期 2024年7月10日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

| | | |
|------|-------|----------|
| 第4期末 | 基準価額 | 11,803円 |
| | 純資産総額 | 2,682百万円 |
| 第4期 | 騰落率 | 12.1% |
| | 分配金 | 90円 |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00~17:00(営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

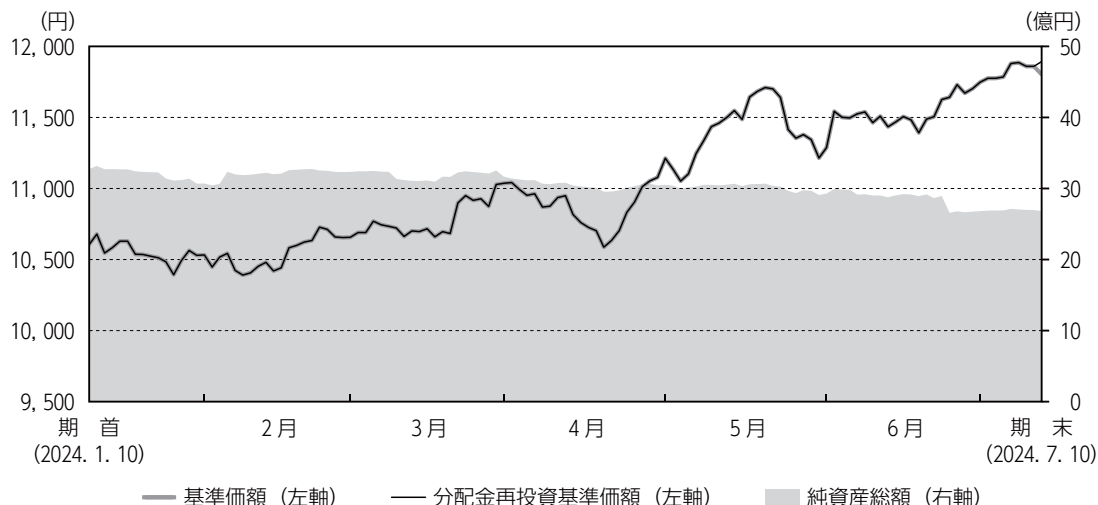
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：10,606円

期末：11,803円 (分配金90円)

騰落率：12.1% (分配金込み)

基準価額の主な変動要因

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券を通じて、日本を含む世界のインフラ関連企業の株式等に投資した結果、円安が主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1 万口当りの費用の明細

| 項 目 | 当 期 (2024. 1. 11~2024. 7. 10) | | 項 目 の 概 要 |
|---------------|----------------------------------|----------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 信 託 報 酬 | 96円 | 0. 873% | 信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11, 034円です。 |
| (投 信 会 社) | (52) | (0. 471) | 投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価 |
| (販 売 会 社) | (43) | (0. 388) | 販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受 託 会 社) | (2) | (0. 014) | 受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| 売 買 委 託 手 数 料 | 5 | 0. 048 | 売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料/当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (株 式) | (5) | (0. 044) | |
| (投 資 証 券) | (0) | (0. 003) | |
| 有 価 証 券 取 引 税 | 3 | 0. 027 | 有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税/当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| (株 式) | (3) | (0. 027) | |
| (投 資 証 券) | (0) | (0. 000) | |
| そ の 他 費 用 | 4 | 0. 033 | その他費用＝当作成期中のその他費用/当作成期中の平均受益権口数 |
| (保 管 費 用) | (3) | (0. 030) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監 査 費 用) | (0) | (0. 003) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (そ の 他) | (0) | (0. 000) | 信託事務の処理等に関するその他の費用 |
| 合 計 | 108 | 0. 981 | |

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

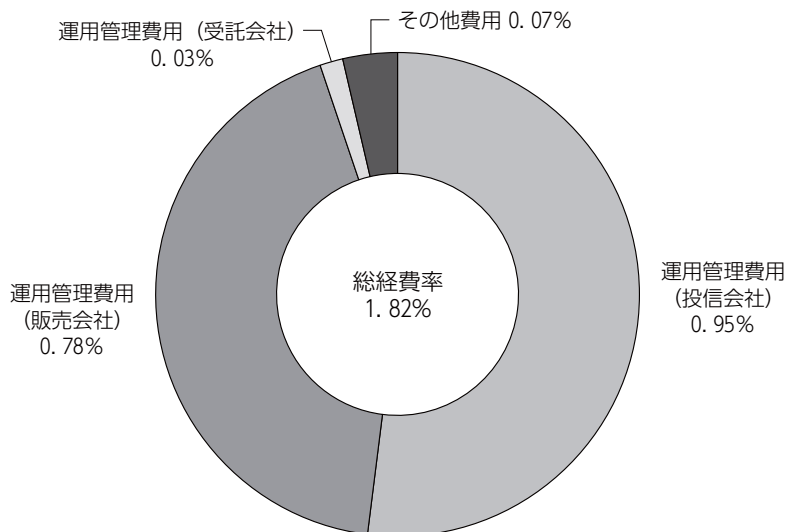
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.82%です。

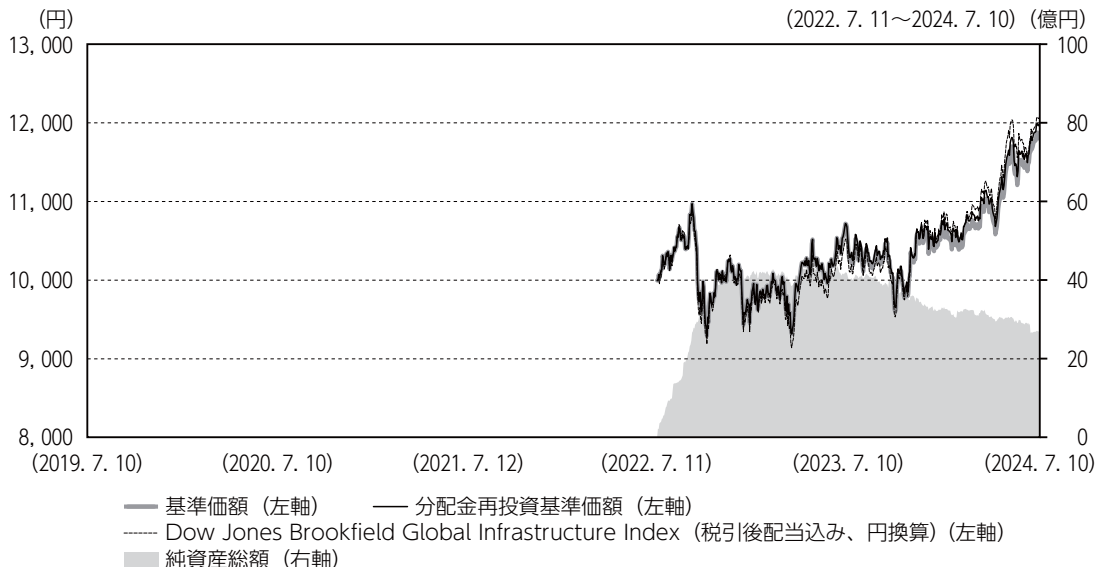


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近 5 年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2022年7月11日を10,000として指数化したものです。

* 参考指数は Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

| | 2022年7月11日 設定 | 2023年7月10日 決算日 | 2024年7月10日 決算日 |
|--|------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 10,000 | 10,347 | 11,803 |
| 期間分配金合計 (税込み) (円) | — | 60 | 130 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 (%) | — | 4.1 | 15.4 |
| Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、円換算) 騰落率 (%) | — | 2.2 | 18.4 |
| 純資産総額 (百万円) | 211 | 4,030 | 2,682 |

(注 1) 比率は小数点第 1 位未満を四捨五入してあります。

(注 2) Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、円換算) は、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) をもとに、大和アセットマネジメントが円換算し計算したものです。

(注 3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注 4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

（2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10）

■ グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇したものの、インフラ関連株式市況は横ばいとなりました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、世界的にインフレ率の低下傾向が継続したことやAI（人工知能）関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、上昇しました。2024年4月に入ると、想定ほどインフレ率が低下せず米国の利下げ開始が後ずれするとの見方が強まり、反落しました。しかし4月下旬以降は、AI関連企業の高成長期待が相場をけん引し、再び上昇して当作成期末を迎えました。

一方、インフラ関連株式市況は、金融政策や金利動向に左右されて横ばい圏で推移しました。

■ 為替相場

投資通貨は対円で上昇（円安）しました。

米ドルは、当作成期首より、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に、円安米ドル高となりました。2024年3月には、日銀がマイナス金利の解除など大規模な金融緩和の終了を発表したものの、他国・地域に比べて緩和的な環境が続く見通しなどから、円安米ドル高が続きました。その後も、過度な円安米ドル高進行に対し政府・日銀が為替介入を行いました。円安基調は継続しました。その他の通貨も米ドル円に連れる展開となり、対円で上昇しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■ 当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

■ モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地

域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運用を行ってまいります。

ポートフォリオについて

(2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10)

当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を高位に維持しました。

モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

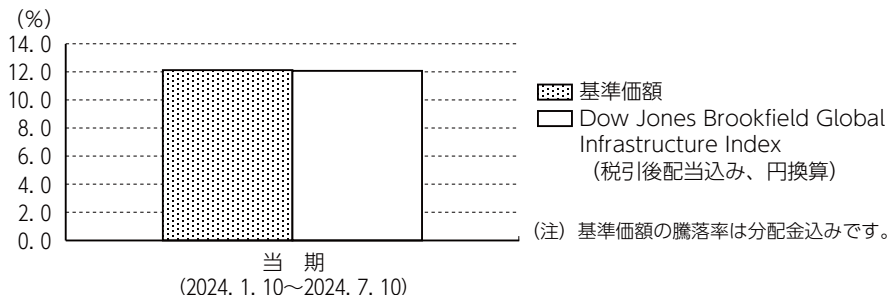
当ファンドの株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託しております。

独自に算出したインフラ関連企業の企業価値をベースに、国・地域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運用を行いました。業種別では、公益事業やエネルギーセクターなどを高位に組み入れました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

| 項 目 | 当期 | |
|-------------------|---------------------------|-----------|
| | 2024年1月11日 ～2024年7月10日 | |
| 当期分配金（税込み） | (円) | 90 |
| 対基準価額比率 | (%) | 0.76 |
| 当期の収益 | (円) | 90 |
| 当期の収益以外 | (円) | — |
| 翌期繰越分配対象額 | (円) | 1,803 |

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

| 項 目 | 当期 |
|-----------------------------|-----------|
| (a) 経費控除後の配当等収益 | ✓ 199.70円 |
| (b) 経費控除後の有価証券売買等損益 | 1,046.99 |
| (c) 収益調整金 | 316.91 |
| (d) 分配準備積立金 | 329.63 |
| (e) 当期分配対象額 (a + b + c + d) | 1,893.23 |
| (f) 分配金 | 90.00 |
| (g) 翌期繰越分配対象額 (e - f) | 1,803.23 |

- (注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

■モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地
域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンを最大化をめざし、運
用を行ってまいります。



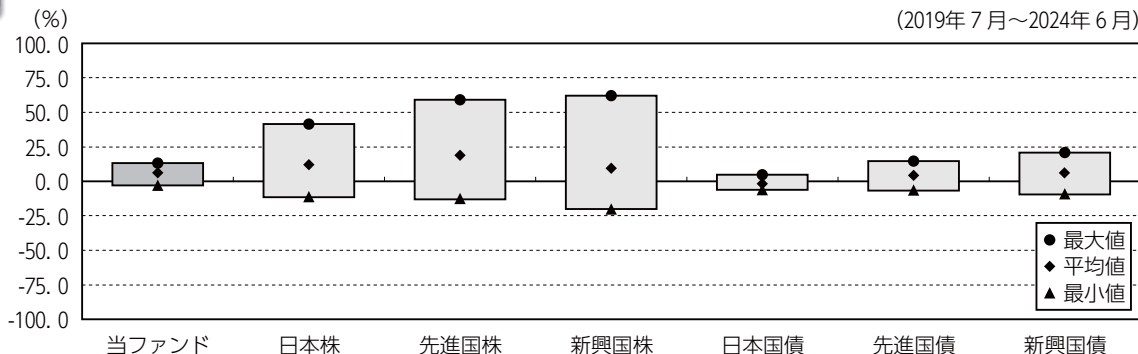
当ファンドの概要

| | | |
|--------------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信/内外/株式 | |
| 信託期間 | 2022年7月11日～2050年7月8日 | |
| 運用方針 | 信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 | |
| 主要投資対象 | ベビーファンド | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンドの受益証券 |
| | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | イ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。またDR（預託証券）を含みます。） ロ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券（上場予定および店頭登録予定を含みます。以下総称して「リート」といいます。） |
| マザーファンドの運用方法 | ①主として、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざします。 ※株式等には、リートを含みます。 ②株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。 ③株式等の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。 | |
| 分配方針 | 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 | |

Dow Jones Brookfield Global Infrastructure IndexはS & P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）およびBrookfield Asset Management Inc.の商品であり、これを利用するライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Standard & Poor's®およびS & P®は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S & P」）の登録商標で、Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。またBrookfield Asset Management Inc.は、Brookfield Asset Management Inc.の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJIに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが大和アセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。「モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド」は、SPDJI、Dow Jones、S & P、それらの各関連会社、またはBrookfield Asset Management Inc.によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Indexのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 13.9 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 15.3 | 21.5 |
| 平均値 | 6.8 | 12.7 | 19.5 | 10.0 | △ 1.2 | 4.9 | 6.7 |
| 最小値 | △ 2.2 | △ 10.8 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 8.8 |

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマーゼィング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマーゼィング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマーゼィング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマーゼィング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



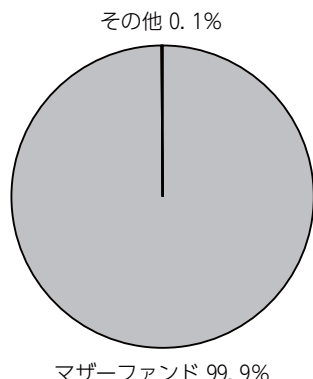
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

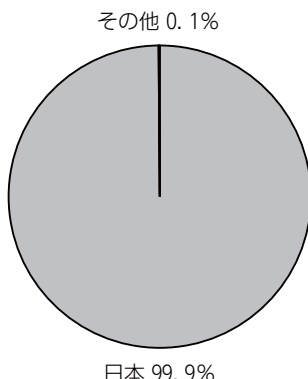
組入ファンド等

| | 比率 |
|--------------------------|-------|
| モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | 99.9% |
| その他 | 0.1 |

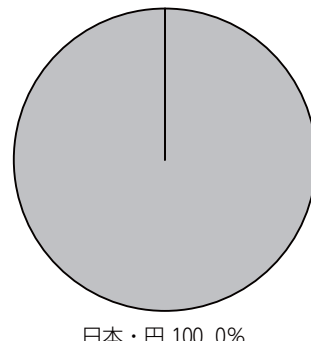
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2024年7月10日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載していません。

純資産等

| 項目 | 当期末 |
|-----------|----------------|
| | 2024年7月10日 |
| 純資産総額 | 2,682,633,732円 |
| 受益権総口数 | 2,272,794,655口 |
| 1万口当り基準価額 | 11,803円 |

* 当期中における追加設定元本額は409,615,245円、同解約元本額は1,224,541,712円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド (作成対象期間 2023年7月11日～2024年7月10日)
13ページをご参照ください。

モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド (為替ヘッジあり/予想分配金提示型)

<3473>

追加型投信/内外/株式
日経新聞掲載名:MS 有予

| | | | |
|------|--------------|------|--------------|
| 第19期 | 2024年2月13日決算 | 第22期 | 2024年5月10日決算 |
| 第20期 | 2024年3月11日決算 | 第23期 | 2024年6月10日決算 |
| 第21期 | 2024年4月10日決算 | 第24期 | 2024年7月10日決算 |

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

| | | |
|-----------|-------|--------|
| 第24期末 | 基準価額 | 9,107円 |
| | 純資産総額 | 629百万円 |
| 第19期~第24期 | 騰落率 | △1.6% |
| | 分配金合計 | 0円 |

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00~17:00(営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

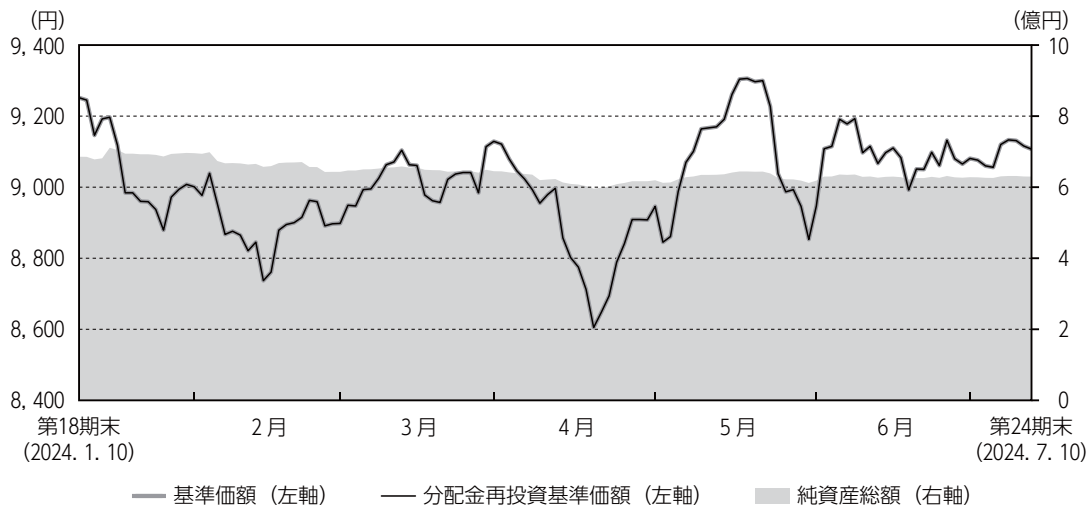
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第19期首：9,252円

第24期末：9,107円（既払分配金0円）

騰落率：△1.6%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券を通じて、日本を含む世界のインフラ関連企業の株式等に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行った結果、ヘッジコスト負担などにより、基準価額は下落しました。

1 万口当りの費用の明細

| 項 目 | 第19期～第24期 (2024. 1. 11～2024. 7. 10) | | 項 目 の 概 要 |
|---------------|--|----------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 信 託 報 酬 | 78円 | 0. 863% | 信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9, 007円です。 |
| （投 信 会 社） | (42) | (0. 466) | 投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価 |
| （販 売 会 社） | (35) | (0. 384) | 販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受 託 会 社） | (1) | (0. 013) | 受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| 売 買 委 託 手 数 料 | 4 | 0. 048 | 売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| （株 式） | (4) | (0. 044) | |
| （投 資 証 券） | (0) | (0. 003) | |
| 有 価 証 券 取 引 税 | 3 | 0. 028 | 有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| （株 式） | (3) | (0. 028) | |
| （投 資 証 券） | (0) | (0. 000) | |
| そ の 他 費 用 | 4 | 0. 049 | その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数 |
| （保 管 費 用） | (4) | (0. 046) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| （監 査 費 用） | (0) | (0. 003) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （そ の 他） | (0) | (0. 001) | 信託事務の処理等に関するその他の費用 |
| 合 計 | 89 | 0. 988 | |

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

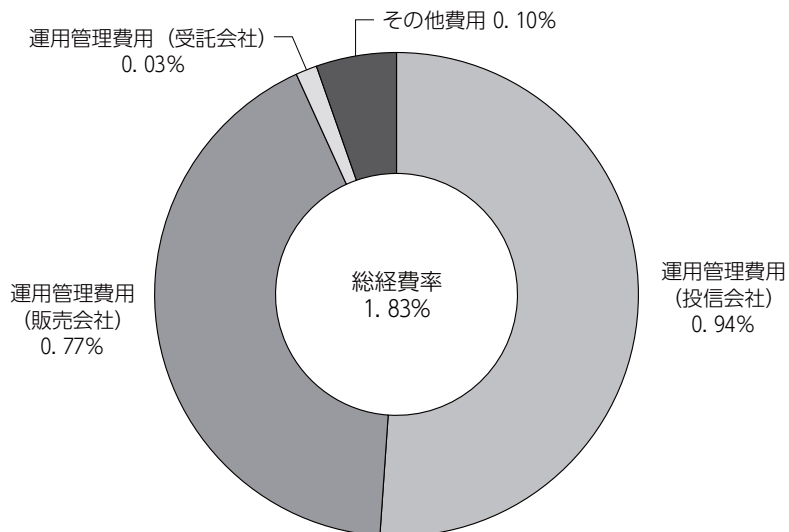
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.83%です。

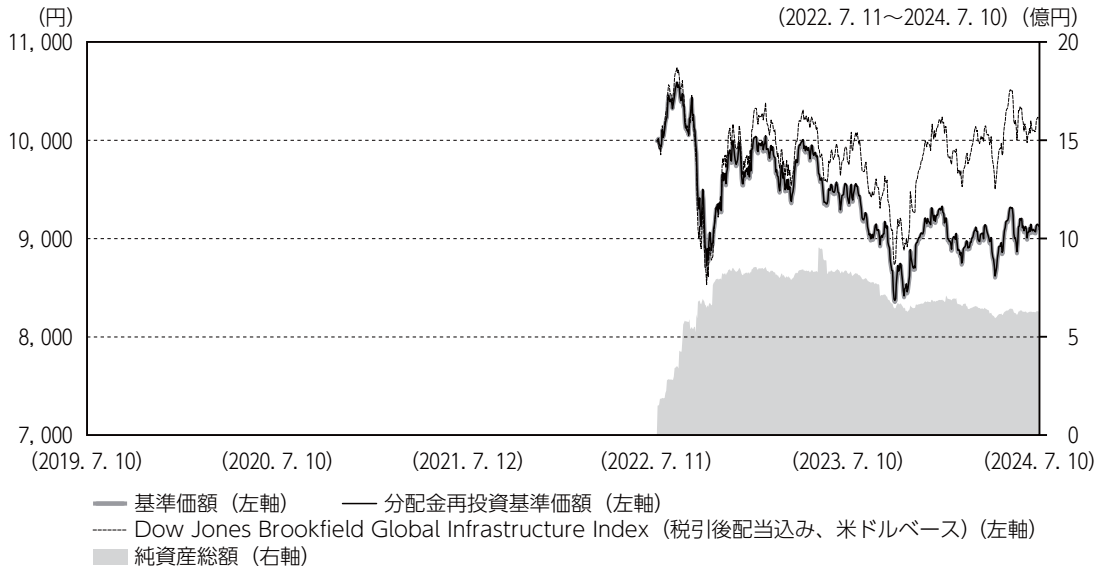


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近 5 年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2022年7月11日を10,000として指数化したものです。

*参考指数は Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

| | | 2022年7月11日 設定 | 2023年7月10日 決算日 | 2024年7月10日 決算日 |
|---|-------|------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 | (円) | 10,000 | 9,374 | 9,107 |
| 期間分配金合計 (税込み) | (円) | — | 20 | 0 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 | (%) | — | △6.1 | △2.8 |
| Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) 騰落率 | (%) | — | △2.2 | 4.5 |
| 純資産総額 | (百万円) | 150 | 823 | 629 |

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) 騰落率は、同指数の原データをもとに、大和アセットマネジメントが計算したものです。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

(2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10)

■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇したものの、インフラ関連株式市況は横ばいとなりました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、世界的にインフレ率の低下傾向が継続したことやAI（人工知能）関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、上昇しました。2024年4月に入ると、想定ほどインフレ率が低下せず米国の利下げ開始が後ずれするとの見方が強まり、反落しました。しかし4月下旬以降は、AI関連企業の高成長期待が相場をけん引し、再び上昇して当作成期末を迎えました。

一方、インフラ関連株式市況は、金融政策や金利動向に左右されて横ばい圏で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

また、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行います。

■モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地
域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運
用を行ってまいります。

ポートフォリオについて

(2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10)

当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を高位に維持しました。

また、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行いました。

モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

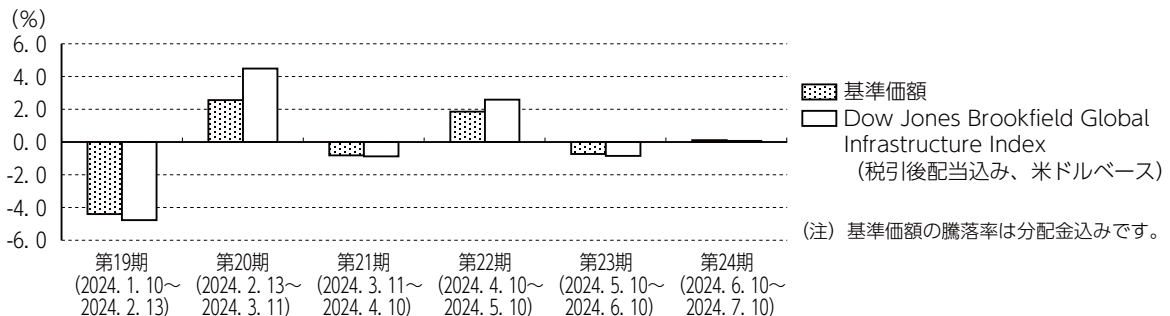
当ファンドの株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託しております。

独自に算出したインフラ関連企業の企業価値をベースに、国・地域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンを最大化をめざし、運用を行いました。業種別では、公益事業やエネルギーセクターなどを高位に組み入れました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、分配方針通り、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳 (1万口当り)

| 項 目 | 第19期 | 第20期 | 第21期 | 第22期 | 第23期 | 第24期 |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 2024年 1月11日 ～2024年 2月13日 | 2024年 2月14日 ～2024年 3月11日 | 2024年 3月12日 ～2024年 4月10日 | 2024年 4月11日 ～2024年 5月10日 | 2024年 5月11日 ～2024年 6月10日 | 2024年 6月11日 ～2024年 7月10日 |
| 当期分配金(税込み) (円) | — | — | — | — | — | — |
| 対基準価額比率 (%) | — | — | — | — | — | — |
| 当期の収益 (円) | — | — | — | — | — | — |
| 当期の収益以外 (円) | — | — | — | — | — | — |
| 翌期繰越分配対象額 (円) | 634 | 651 | 660 | 689 | 735 | 759 |

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



今後の運用方針

当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

また、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクの低減のために、為替ヘッジを行います。

モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地
域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運
用を行ってまいります。



当ファンドの概要

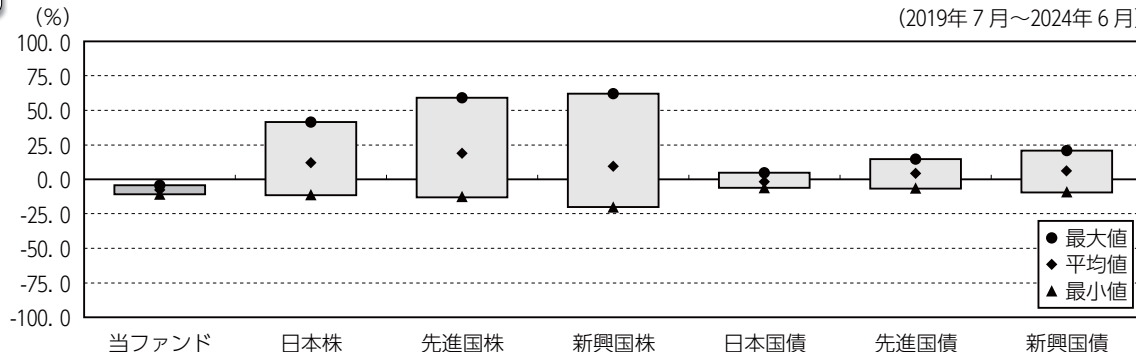
| | | |
|--------------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／株式 | |
| 信託期間 | 2022年7月11日～2032年7月9日 | |
| 運用方針 | 信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 | |
| 主要投資対象 | ベビーファンド | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンドの受益証券 |
| | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | イ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。またDR（預託証券）を含みます。） ロ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券（上場予定および店頭登録予定を含みます。以下総称して「リート」といいます。） |
| ベビーファンドの運用方法 | ①マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ②保有実質外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。ただし、一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、他の通貨による代替ヘッジを行なう場合があります。 ※保有実質外貨建資産とは、当ファンドが保有する外貨建資産およびマザーファンドが保有する外貨建資産のうち当ファンドに属するとみなした外貨建資産をいいます。 | |
| マザーファンドの運用方法 | ①主として、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざします。 ※株式等には、リートを含みます。 ②株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。 ③株式等の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。 | |
| 分配方針 | 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、下記イ.、ロ. およびハ. に基づき分配します。 イ. 計算期末の前営業日の基準価額（1万口当たり。既払分配金を加算しません。以下同じ。）が10,000円未満の場合、原則として、分配は行ないません。 ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が10,000円以上10,500円未満の場合、原則として、分配対象額の範囲内で、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。 ハ. 計算期末の前営業日の基準価額が10,500円以上の場合、原則として、分配対象額の範囲内で、当該基準価額に応じ、下記の金額（1万口当たり）を分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。 (a) 10,500円以上11,000円未満の場合・・・50円 (b) 11,000円以上12,000円未満の場合・・・100円 (c) 12,000円以上13,000円未満の場合・・・150円 (d) 13,000円以上14,000円未満の場合・・・200円 (e) 14,000円以上15,000円未満の場合・・・250円 (f) 15,000円以上の場合・・・300円 なお、当該計算期末に向けて基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行なわないことがあります。 | |

Dow Jones Brookfield Global Infrastructure IndexはS & P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）およびBrookfield Asset Management Inc.の商品であり、これを利用するライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Standard & Poor's® およびS & P®は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S & P」）の登録商標で、Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。またBrookfield Asset Management Inc.は、Brookfield Asset Management Inc.の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJIに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが大和アセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。「モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド」は、SPDJI、Dow Jones、S & P、それらの各関連会社、またはBrookfield Asset Management Inc.によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Indexのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年7月～2024年6月)



| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | △ 3.7 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 15.3 | 21.5 |
| 平均値 | △ 7.1 | 12.7 | 19.5 | 10.0 | △ 1.2 | 4.9 | 6.7 |
| 最小値 | △ 10.2 | △ 10.8 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 8.8 |

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



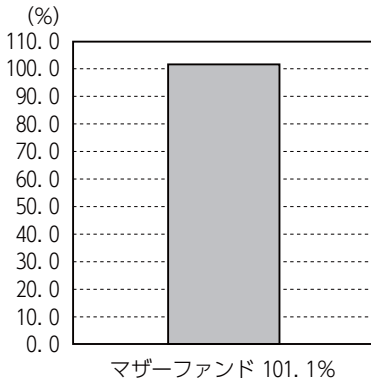
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

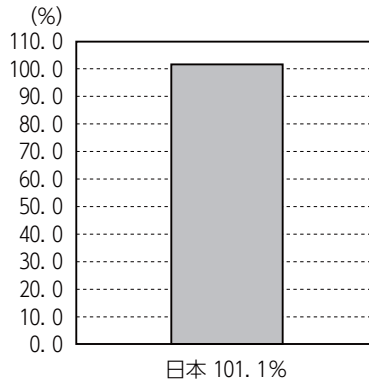
組入ファンド等

| | 比率 |
|--------------------------|--------|
| モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | 101.1% |

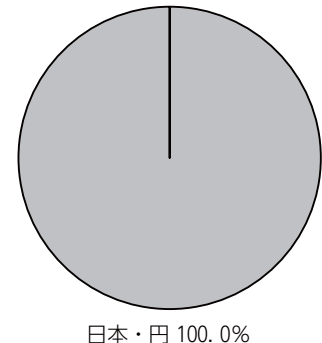
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2024年7月10日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 組入ファンドの保有外貨建資産に対して、為替ヘッジを行っています（為替ヘッジ比率：当ファンドの純資産総額の99.8%）。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

| 項 目 | 第19期末 | 第20期末 | 第21期末 | 第22期末 | 第23期末 | 第24期末 |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 2024年2月13日 | 2024年3月11日 | 2024年4月10日 | 2024年5月10日 | 2024年6月10日 | 2024年7月10日 |
| 純資産総額 | 665,490,311円 | 655,784,809円 | 622,867,030円 | 634,452,029円 | 628,972,691円 | 629,724,514円 |
| 受益権総口数 | 752,394,545口 | 722,967,280口 | 692,309,063口 | 692,330,406口 | 691,413,861口 | 691,435,183口 |
| 1万口当り基準価額 | 8,845円 | 9,071円 | 8,997円 | 9,164円 | 9,097円 | 9,107円 |

* 当作成期間（第19期～第24期）中における追加設定元本額は62,074,869円、同解約元本額は111,971,326円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド（作成対象期間 2023年7月11日～2024年7月10日）
13ページをご参照ください。

モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド (為替ヘッジなし/予想分配金提示型)

<3474>

追加型投信/内外/株式
日経新聞掲載名:MS イン無予

| | | | |
|------|--------------|------|--------------|
| 第19期 | 2024年2月13日決算 | 第22期 | 2024年5月10日決算 |
| 第20期 | 2024年3月11日決算 | 第23期 | 2024年6月10日決算 |
| 第21期 | 2024年4月10日決算 | 第24期 | 2024年7月10日決算 |

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

| | | |
|-----------|-------|---------|
| 第24期末 | 基準価額 | 11,351円 |
| | 純資産総額 | 650百万円 |
| 第19期~第24期 | 騰落率 | 12.1% |
| | 分配金合計 | 410円 |


(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00~17:00(営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

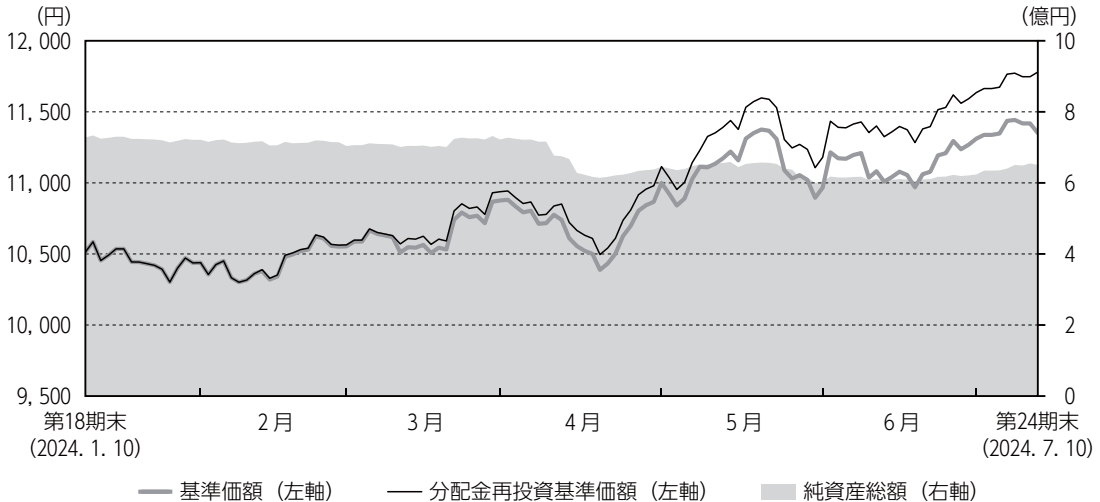
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第19期首：10,513円

第24期末：11,351円（既払分配金410円）

騰落率：12.1%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券を通じて、日本を含む世界のインフラ関連企業の株式等に投資した結果、円安が主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1 万口当りの費用の明細

| 項 目 | 第19期～第24期 (2024. 1. 11～2024. 7. 10) | | 項 目 の 概 要 |
|---------------|--|----------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 信 託 報 酬 | 94円 | 0. 871% | 信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10, 804円です。 |
| （投 信 会 社） | (51) | (0. 470) | 投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価 |
| （販 売 会 社） | (42) | (0. 387) | 販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受 託 会 社） | (1) | (0. 014) | 受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| 売 買 委 託 手 数 料 | 5 | 0. 048 | 売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| （株 式） | (5) | (0. 045) | |
| （投 資 証 券） | (0) | (0. 003) | |
| 有 価 証 券 取 引 税 | 3 | 0. 029 | 有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| （株 式） | (3) | (0. 029) | |
| （投 資 証 券） | (0) | (0. 000) | |
| そ の 他 費 用 | 4 | 0. 034 | その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数 |
| （保 管 費 用） | (3) | (0. 031) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| （監 査 費 用） | (0) | (0. 002) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （そ の 他） | (0) | (0. 000) | 信託事務の処理等に関するその他の費用 |
| 合 計 | 106 | 0. 982 | |

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

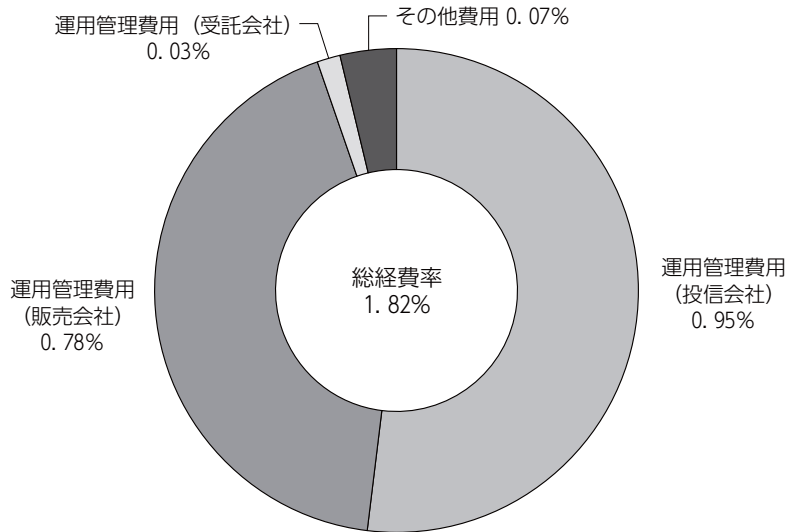
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.82%です。

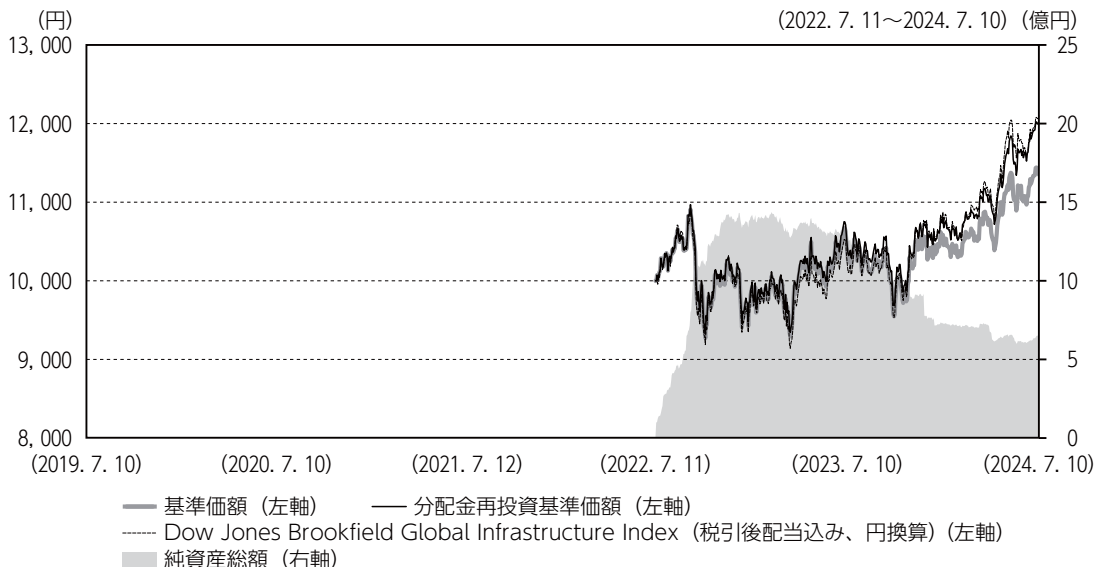


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近 5 年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2022年7月11日を10,000として指数化したものです。

* 参考指数は Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

| | | 2022年7月11日 設定 | 2023年7月10日 決算日 | 2024年7月10日 決算日 |
|--|-------|------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 | (円) | 10,000 | 10,349 | 11,351 |
| 期間分配金合計 (税込み) | (円) | — | 90 | 540 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 | (%) | — | 4.4 | 15.3 |
| Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、円換算) 騰落率 | (%) | — | 2.2 | 18.4 |
| 純資産総額 | (百万円) | 100 | 1,268 | 650 |

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、円換算) は、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Index (税引後配当込み、米ドルベース) をもとに、大和アセットマネジメントが円換算し計算したものです。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

（2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10）

■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇したものの、インフラ関連株式市況は横ばいとなりました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、世界的にインフレ率の低下傾向が継続したことやAI（人工知能）関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、上昇しました。2024年4月に入ると、想定ほどインフレ率が低下せず米国の利下げ開始が後ずれするとの見方が強まり、反落しました。しかし4月下旬以降は、AI関連企業の高成長期待が相場をけん引し、再び上昇して当作成期末を迎えました。

一方、インフラ関連株式市況は、金融政策や金利動向に左右されて横ばい圏で推移しました。

■為替相場

投資通貨は対円で上昇（円安）しました。

米ドルは、当作成期首より、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に、円安米ドル高となりました。2024年3月には、日銀がマイナス金利の解除など大規模な金融緩和の終了を発表したものの、他国・地域に比べて緩和的な環境が続く見通しなどから、円安米ドル高が続きました。その後も、過度な円安米ドル高進行に対し政府・日銀が為替介入を行いました。円安基調は継続しました。その他の通貨も米ドル円に連れる展開となり、対円で上昇しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

■モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地

域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運用を行ってまいります。

ポートフォリオについて

(2024. 1. 11 ~ 2024. 7. 10)

当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を高位に維持しました。

モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

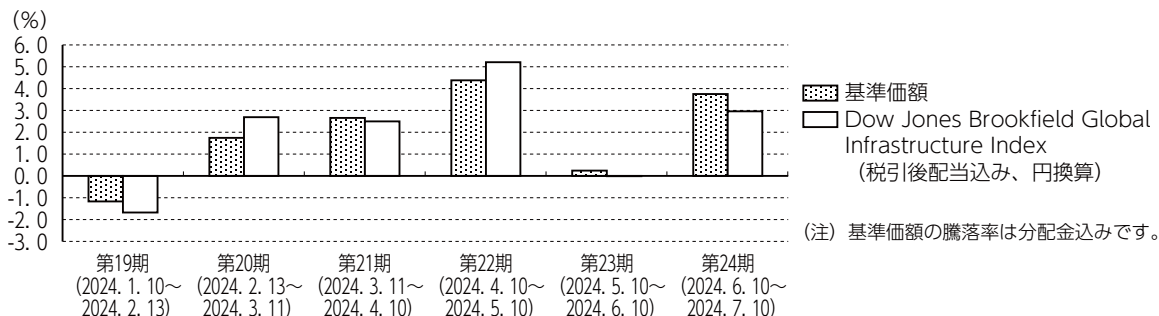
当ファンドの株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託しております。

独自に算出したインフラ関連企業の企業価値をベースに、国・地域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運用を行いました。業種別では、公益事業やエネルギーセクターなどを高位に組み入れました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

| 項 目 | 第19期 | 第20期 | 第21期 | 第22期 | 第23期 | 第24期 |
|-----------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 2024年1月11日 ～2024年2月13日 | 2024年2月14日 ～2024年3月11日 | 2024年3月12日 ～2024年4月10日 | 2024年4月11日 ～2024年5月10日 | 2024年5月11日 ～2024年6月10日 | 2024年6月11日 ～2024年7月10日 |
| 当期分配金(税込み) (円) | 10 | 50 | 50 | 100 | 100 | 100 |
| 対基準価額比率 (%) | 0.10 | 0.47 | 0.46 | 0.89 | 0.90 | 0.87 |
| 当期の収益 (円) | — | 18 | 50 | 100 | 55 | 100 |
| 当期の収益以外 (円) | 10 | 31 | — | — | 44 | — |
| 翌期繰越分配対象額 (円) | 739 | 708 | 827 | 1,199 | 1,155 | 1,428 |

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計上上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

| 項 目 | 第19期 | 第20期 | 第21期 | 第22期 | 第23期 | 第24期 |
|-----------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| (a) 経費控除後の配当等収益 | 0.00円 | ✓ 18.75円 | ✓ 26.22円 | ✓ 36.15円 | ✓ 55.77円 | ✓ 43.71円 |
| (b) 経費控除後の有価証券売買等損益 | 0.00 | 0.00 | ✓ 143.06 | ✓ 435.20 | 0.00 | ✓ 329.33 |
| (c) 収益調整金 | 390.24 | 390.30 | 396.91 | 400.00 | 400.99 | 431.23 |
| (d) 分配準備積立金 | ✓ 359.19 | ✓ 349.13 | 311.65 | 428.01 | ✓ 798.41 | 724.36 |
| (e) 当期分配対象額 (a+b+c+d) | 749.43 | 758.19 | 877.85 | 1,299.36 | 1,255.18 | 1,528.65 |
| (f) 分配金 | 10.00 | 50.00 | 50.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
| (g) 翌期繰越分配対象額 (e-f) | 739.43 | 708.19 | 827.85 | 1,199.36 | 1,155.18 | 1,428.65 |

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態
で高位に維持することを基本とします。

■モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド

日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざ
します。なお、株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメ
ント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

企業が所有・運営するインフラ関連事業の価値や成長見通しなどを精査し、実物インフラ投資市
場の情報等を参照しながら企業価値を独自に算出します。ポートフォリオ構築においては、国・地
域やインフラ分野間の相対的な投資妙味を加味しながら、トータルリターンの最大化をめざし、運
用を行ってまいります。



当ファンドの概要

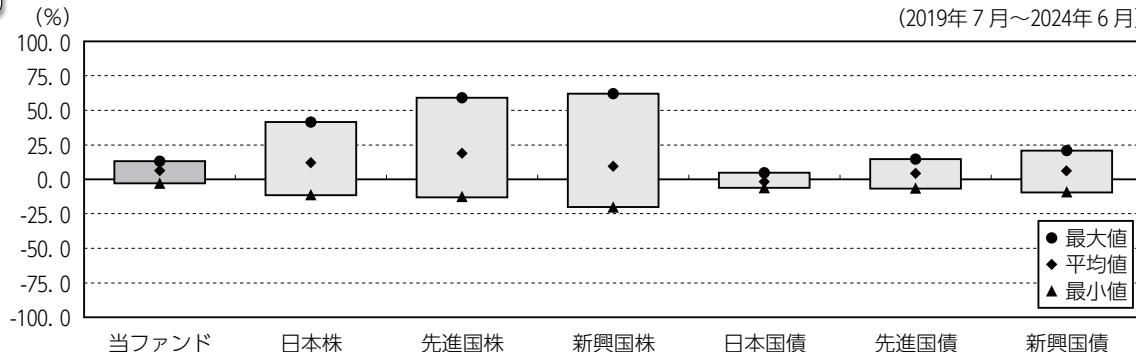
| | | |
|--------------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／株式 | |
| 信託期間 | 2022年7月11日～2032年7月9日 | |
| 運用方針 | 信託財産の成長をめざして運用を行いません。 | |
| 主要投資対象 | ベビーファンド | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンドの受益証券 |
| | モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | イ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。またDR（預託証券）を含みます。） ロ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券（上場予定および店頭登録予定を含みます。以下総称して「リート」といいます。） |
| マザーファンドの運用方法 | <p>①主として、日本を含む世界の株式等の中から、インフラ関連企業の株式等に投資し、信託財産の成長をめざします。 ※株式等には、リートを含みます。</p> <p>②株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。</p> <p>③株式等の組入比率は、通常の状態では高位に維持することを基本とします。</p> <p>④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行いません。</p> | |
| 分配方針 | <p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、下記イ.、ロ. およびハ. に基づき分配します。</p> <p>イ. 計算期末の前営業日の基準価額（1万口当たり。既払分配金を加算しません。以下同じ。）が10,000円未満の場合、原則として、分配は行いません。</p> <p>ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が10,000円以上10,500円未満の場合、原則として、分配対象額の範囲内で、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。</p> <p>ハ. 計算期末の前営業日の基準価額が10,500円以上の場合、原則として、分配対象額の範囲内で、当該基準価額に応じ、下記の金額（1万口当たり）を分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p> <p>(a) 10,500円以上11,000円未満の場合・・・50円 (b) 11,000円以上12,000円未満の場合・・・100円 (c) 12,000円以上13,000円未満の場合・・・150円 (d) 13,000円以上14,000円未満の場合・・・200円 (e) 14,000円以上15,000円未満の場合・・・250円 (f) 15,000円以上の場合・・・300円</p> <p>なお、当該計算期末に向けて基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。</p> | |

Dow Jones Brookfield Global Infrastructure IndexはS & P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）およびBrookfield Asset Management Inc. の商品であり、これを利用するライセンスが大和アセットマネジメント株式会社に付与されています。Standard & Poor's® およびS & P® は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S & P」）の登録商標で、Dow Jones® は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。またBrookfield Asset Management Inc. は、Brookfield Asset Management Inc. の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJIに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが大和アセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。「モルガン・スタンレー インフラ株式ファンド」は、SPDJI、Dow Jones、S & P、それらの各関連会社、またはBrookfield Asset Management Inc. によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Indexのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年7月～2024年6月)



| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 13.8 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 15.3 | 21.5 |
| 平均値 | 6.9 | 12.7 | 19.5 | 10.0 | △ 1.2 | 4.9 | 6.7 |
| 最小値 | △ 2.2 | △ 10.8 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 8.8 |

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用されています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



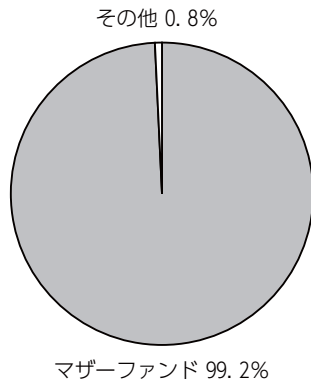
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

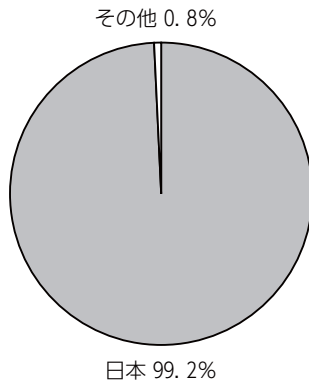
組入ファンド等

| | 比率 |
|--------------------------|-------|
| モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド | 99.2% |
| その他 | 0.8 |

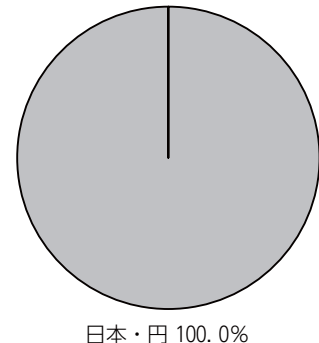
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2024年7月10日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載していません。

純資産等

| 項目 | 第19期末 | 第20期末 | 第21期末 | 第22期末 | 第23期末 | 第24期末 |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 2024年2月13日 | 2024年3月11日 | 2024年4月10日 | 2024年5月10日 | 2024年6月10日 | 2024年7月10日 |
| 純資産総額 | 717,289,640円 | 701,102,311円 | 674,953,651円 | 651,768,188円 | 607,823,030円 | 650,832,778円 |
| 受益権総口数 | 691,059,995口 | 667,047,001口 | 628,463,992口 | 586,671,414口 | 550,713,009口 | 573,386,479口 |
| 1万口当り基準価額 | 10,380円 | 10,511円 | 10,740円 | 11,110円 | 11,037円 | 11,351円 |

* 当作成期間 (第19期～第24期) 中における追加設定元本額は41,292,873円、同解約元本額は160,345,239円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆モルガン・スタンレー インフラ株式マザーファンド (作成対象期間 2023年7月11日～2024年7月10日) 13ページをご参照ください。